

令和2年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
研究成果等概要報告書

研究テーマ名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な供給体制の構築に関する研究」
政策研連携研究課題名	食料供給、食料消費の構造的な変化を踏まえた食料安全保障に関する研究
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）
P0	総括上席研究官 高橋 克也

1 研究の進捗状況等

本年度は研究に必要なデータ類購入の他、ウェブアンケート調査を実施するなど、環境整備を中心に進めた。同時に、一部については集計・分析を進めており、次年度には個別報告や論文投稿も予定している。さらに、委託先との議論から追加調査や分析とともに、残された課題である食料供給体制や食料安保の分析についても着手する予定である。

① 食料消費の構造変化に関する分析

個人家計データを利用した購買履歴分析では、アソシエーション分析を用いて食品アイテムの組み合わせと購入先の組み合わせを確認したところ、内食関連の食品が他品目との組合せ増、惣菜等の組合せ減となっており、この点からも家庭内飲食の増加していることが確認された。

食品摂取頻度調査を利用した消費者パネル調査において、各食品群及び栄養素摂取に対して通販等を含めた購入先とともに個人属性やリスク認知を確認したところ、在宅勤務日数が食品購入先とともに炭水化物の消費に影響している点などがあきらかになった。

その他、農産物の市場および消費者価格、小売店販売動向、外食など、フードシステム全般の価格動向についても随時把握している。

②食料供給体制の構造変化に関する分析および③食料安全保障のあり方に関する分析については、①の分析結果および委託先との議論も踏まえて、次年度以降に具体化するとともに場合によっては研究計画の見直しをする予定である。